

Fuji Champion Race Series Round 3

2022.6.25 SAT-26 SUN

SILVIA・ALTEZZA/NA1600
AE86/AE111/ROADSTER N1
ROUND 1



今回が開幕となるこのカテゴリー、土曜日朝の予選ではシルビア・アルテツァクラスの#15 S15シルビア 山崎浩明が1'58.313でトップタイムを出し、NA1600 #37 四季の森齒科IDIウィンちゃん86 秋元優範が2'00.495で続く。AE111では総合5番手タイムの#91 MAS・IDI・DL・レビン 船木 周一の2'04.867。AE86は総合6番手#240 ガレージアネックス・μ・レビン 山口崇の2'05.011。ロードスター N1は#43 OTPアクレTSMロードスター 大井正伸2'12.280がトップタイムだった。決勝グリッドはNA1600が先頭集団となり、10グリッド空けてシルビア・AE111クラス、さらに6グリッド空けてAE86・ロードスター N1という順になっているが、今回は複数台の車両がピットスタートとなった。

10:05にスタートが切られ、快調にトップを守る#15山崎、その後はAE111予選4番手の#18 ACRE塩岡スピードレビンが総合2番手・クラストップで快走するが、4周目にはピットスタートながら順調にクラス違いのマシンをパスし続けてポジションを上げてきたNA1600 #37秋元が2番手に上がってきた。その後も各所でバトルはあったものの、11週の決勝は

#15山崎が逃げきった。レース終了後、各クラス優勝ドライバーのコメントは、総合・シルビア・アルテツァクラス#15山崎「予選トップタイムでもポールポジション位置からのスタートとはならないのですが、今回はまさかの前に誰もいないところからのスタート。前が開けていて、なかなかできる経験でなかったので貸し切りみたいな感じでスタートしました。暑くてとても疲れましたし予選と決勝の間が短くて全部一人でやらなきゃならなかったので汗だくでした」AE86 #240 山口「オープニングラップでちょっと当たってしまったので、優勝も手放しでは喜べないです」NA1600 #37 秋元「コースインに出遅れてしまいました。NA1600クラスは全員ピットスタートになってしまいましたね。古いタイヤで行ったので後半は後ろに近づかれてしまいました。次回は新品で行きます」AE111 #18塩岡「皆がコースインに遅れたことで勝たせていただきました」ロードスター N1 #43 大井「2台しか出ていないのは寂しいですね。富士はホームコースなのとやはり楽しいので皆をもっと誘ってみようと思っています」と語った。



RESULT リザルト AE111

Rank No.	Name
1	18 塩岡 雅敏
2	32 松川 智泰
3	91 船木 周一
4	19 池田 真一郎
5	11 白井 利明
6	13 金崎 権



RESULT リザルト AE86

Rank No.	Name
1	240 山口 崇
2	40 柳本 文彦
3	41 中村 徹



RESULT リザルト NA1600

Rank No.	Name
1	37 秋元 優範
2	64 矢島 篤
3	31 高橋 賢一



RESULT リザルト SILVIA・ALTEZZA

Rank No.	Name
1	15 山崎 浩明
2	45 伊藤 英彦



RESULT リザルト ROADSTER CUP N1

Rank No.	Name
1	43 大井 正伸
2	38 長井 雄太朗

Super FJ Round 4 & 5



SUPER FJは2022年も筑波・富士シリーズとして開催され、今回の2レースはS-FJジャパンチャレンジの対象となる。土曜日朝の予選でベストタイムが第4戦のグリッド、セカンドベストタイムが第5戦のグリッドが決まるというレギュレーションになっている。予選ベストタイムを出して、第4戦のポールポジションを獲得したのは、#5 FTK・レヴレーシングガレージ 岡本大地 1'51.248。フロントローに並ぶのは#56 DIXCEL/ROYAL 森山冬星 1'51.639、3番手には#15 Okabe Rn-sports KKS2 小松響 1'51.865。4番手に#14 ZAP SPEED 10VED 稲葉摩人 1'52.309という結果になった。

決勝ではオープニングラップをトップで抑えて戻って来たのは#5岡本、その岡本を2周目には#56森山がとらえてトップに立つ。しかし#5岡本も

びったり後ろについたまま奪い返すチャンスを狙って何度も仕掛ける、その後ろでは3番手争いの#15 小松と#16 稲葉の激しいバトルが続く。レース後半になってもそのバトルは続き、トップ2台はお互いにファステストラップを更新しながらのバトル。ラストラップにはトップ2台も3位争いの2台も各所で並びながらの激しい展開となったが、12週の決勝は0.019秒という僅差で#56森山が先にチェッカーを受けた。#56森山のレース終了後コメントは「凄いレースでした。トップにたっただけからは後ろを気にしないようにミラーをなるべく見ないで自分の走りに集中していました。この2週間で3勝目になるので、この調子で次の第5戦も頑張ります」と語った。



RESULT リザルト Rd.4

Rank No.	Name
1	56 森山 冬星
2	5 岡本 大地
3	14 稲葉 摩人
4	15 小松 響
5	53 安田 航
6	26 白崎 稜



同じ日の最終レースとして行われた第5戦、スターティンググリッドはポールポジションが#5岡本大地1'51.467。フロントローが第4戦優勝の#56森山冬星 1'51.664、3番手に#14 稲葉摩人1'52.322、4番手に#15 小松響 1'52.438という上位陣は同じ顔ぶれになっている。

13:49、ドライコンディションの中でスタートがきられ、ポールポジションの#5岡本が絶好のスタートで後続を少し引き離しオープニングラップを戻ってくる。その後もファステストラップを更新しながら後続を引き離しにかかっている。レース中盤には#5 岡本、#56 森山、#14稲葉との差が3秒ほどになっているが、3番手争いはコンマ差で続く。7周目にその3番手争いを

していた#14 稲葉がダンロップでマシンがストップしてしまい、代わって3番手に上がったのは#15 小松。その後も#15小松と#13 A'sカンパニー ZAP ED 田上蒼竜の激しいバトルが続き、ラストラップで前に出た#13田上。12週の決勝は#5 岡本、#56森山、#13田上の順でチェッカーとなった。レース後#5岡本は「逃げ切れました！ タイヤも新品状態だったのでスタートが上手くまりました。その後もずっとプッシュしていました。マシンセッティングは基本的には鈴鹿とこの富士では変えてはいませんが、細かいところはいろいろ試してみました」と語った。



RESULT リザルト Rd.5

Rank No.	Name
1	5 岡本 大地
2	56 森山 冬星
3	13 田上 蒼竜
4	15 小松 響
5	26 白崎 稜
6	19 松田 大輝

86&BRZ FUJI 86BRZ Challenge Cup Round 2



第2戦を迎えたこのカテゴリー。今回は賞典外ながらも新型GR86も参戦し14台がエントリーとなっている。土曜朝の予選でトップタイムを出したのはその#52 86RACER'S GR86 竹内浩典の2'00.127。ポールポジションからのスタートとなった。フロントローにはFuji 86&BRZ Challenge Cup JP-2Rクラス#99 プロコンボジットBLITZ86 小野田貴敏2'00.725。3番手には同じJP-2R #8 パワークラフトBLITZ86 古田聡2'00.817。4番手に86&BRZクラストップの#312 埼玉自動車大学校MS86 松本晴彦2'02.457、5番手に同じく86&BRZ #88 IDI服部クリニック86 服部文雄2'02.970といったグリッド順になっている。

12:30の決勝スタート時には天候は曇りだが、かなり蒸し暑くなってきている。その中でスタートが切られ#52竹内がトップを守り最初にTGRコーナーへ、その後ろでは好スタートを決めた#312松本がコカ・コーラコーナーまでには3番手に上がってくるが2周目のストレートで#8古田が3番手に順位を戻す。その後はトップを守る#52竹内の後ろでJP-2クラス#99小野田と#8古田が激しいクラストップ争いを繰り広げ、8周目には#52竹内がバトルの邪魔をしないようにとトップを譲る形で、その2台が総合トップに立ち、最後まで接戦となった10周の決勝は約0.7秒差で#99小野田が先にチェッ

カーを受けた。86&BRZは#312松本が優勝。Challenge Cup JP-2Sでは#41 みこころ41Ash86 池本繁弘、JP-3Sクラスは#72 堀舜之、JP-4Sは#15 #15Watanabe86 渡邊敏康が最初にチェッカーを受けた。レース終了後、総合優勝の#99小野田は「バトル、ものすごく楽しかったです！古田さんとのセッティングの違いがあり、速い場所が違っていたのでこちらの加速の良さをなんとか使って最後までブロック出来ました」と語り、86&BRZクラス優勝の#312松本は「ウェットならなんとかできるのですが、ドライだとキツイです。ストレートがどうしてももかなわないので、何とかついでいこうと思って走りましたけれどやはりマシンの特性の差で無理でした」と語った。



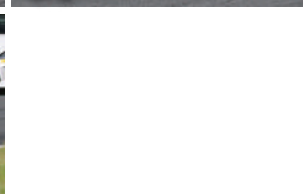
RESULT リザルト
Fuji 86BRZ Challenge Cup 2R

Rank No.	Name
1	15 渡邊 敏康



RESULT リザルト 86&BRZ

Rank No.	Name
1	312 松本 晴彦
2	57 伊藤 俊哉
3	53 森田 幸二郎
4	222 松下 浩平
5	88 服部 文雄
賞典外	52 竹内 浩典



RESULT リザルト
Fuji 86BRZ Challenge Cup 2R

Rank No.	Name
1	99 小野田 貴俊
2	8 古田 聡



RESULT リザルト
Fuji 86BRZ Challenge Cup 2S

Rank No.	Name
1	41 池本 繁弘
2	241 鈴木 貴大



RESULT リザルト
Fuji 86BRZ Challenge Cup 3S

Rank No.	Name
1	72 堀 舜之
2	100 YUKO
3	700 梅原 雄一

FCR-Vitz Round 2



全3戦で行われる今シーズンの第2戦。日曜日の予選でトップタイムをマークしてポールポジションからのスタートを決めたのは#46 46KUSヴィクトリー Vitz ジェネリック 内田 2'18.470。2番手には#50 おうちの買い方☆制動屋 Vitz 三浦 康司の2'18.585。3番手には#747 NUTEC☆制動屋☆KRSvitz 坂野 貴毅2'18.855。4番手には#456 GarageN SALTO EXEDY Vitz 大崎達也の2'18.903という結果になった。今回はエントリーが19台、3台が出走しなかったので決勝は16台での争いになった。

日曜日は他のクラスの予選でアクシデントがあったため、スケジュールが若干遅れて11:30にスタートが切られた。好スタートでホールショットを決めたのは#50三浦でオープニングラップをトップで戻って来た。1秒差で続いているのは#747 坂野でその後ろには5番グリッドの#713 白井家次男坊お父さんのVitz 白井涼が続く。#50、#747、#713のトップ3台がコンマ差で周回を重ね、#713白井も4周目にはファステストラップを出したり、最終週では何とか#747坂野も#50三浦のスリッにつこう試みるが、8週の決勝は0.3秒差で#50三浦が最初にチェッカーを受けた。2位には#747坂野、3位が#713白井という結果となった。レース後#50三浦は「予選2番手ばかりですね。今回はスタートが上手くいって、その後も順調に走れましたがやはりポルトウウィンで決めたいです。全3戦中、これで2勝は出来ましたが、まだポイント差でチャンピオンは決まったわけでもないのだからと1戦、この調子で頑張って、なんとしてもポルトウウィンでチャンピオンを決めたいです」と語った。



RESULT リザルト FCR-Vitz

Rank	No.	Name
1	50	三浦 康司
2	747	坂野 貴毅
3	713	白井 涼
4	46	ジェネリック内田
5	456	大崎 達也
6	307	井上 功

FCR-86BRZ RACE Round 2



こちら第2戦を迎えたFCR-86BRZ。今回は第1戦よりエントリーも増えて27台が参加。日曜日の予選はドライコンディションの中で行われ、ポールポジションを決めたのは、第1戦3位の#115 OFFICEHIT86K-one 三浦 亮保2'06.967。2番手には前日の86&BRZで優勝した#312 埼玉自動車大学校MS86 松本晴彦2'07.244。3番手からは#2 サミット&ミッドランド86 伊藤俊哉2'07.774。4番手が#406 BSデイトナSPM86 マン太郎2'07.859という結果となった。

14:10に決勝スタートが切られ、好スタートを決めトップでTGRコーナーへ最初に入っていたのは#312松本。そのままオープニングラップをトップで戻ってくる。#312、#115、#2のトップ3台はその後1秒前後のタイム差でコンスタントに周回を重ねていく、その後ろでは6番手争いの5台がコンマ差で順位を変えながら激戦を繰り広げている。上位3台はこのまま走り切ると思われたラストラップに予選7番手から徐々にポジションアップしてきた#13アテックスHD・ML86BS 蓬田昭男が#2 伊藤を抜いて3位になり、10週の決勝は#312松本、#115三浦、#13蓬田の順でチェッカーを受けた。2日連続優勝を果たした#312松本はレース後「三浦さんは速いし、スタートはついていて、後半勝負と思っていましたが、スタートが上手くいって前に出られました。その後も皆さん思っていたより来なかった。優勝出来て嬉しいです」と語った。



RESULT リザルト FCR-86BRZ RACE

Rank	No.	Name
1	312	松本 晴彦
2	115	三浦 亮保
3	13	蓬田 昭男
4	2	伊藤 俊哉
5	23	YOSHIKI
6	406	マン太郎

Porsche Sprint Challenge Cup Round 5 & 6



RESULT リザルト GT3-I

Rank No.	Name
1	99 KEN YAMAMOTO
2	16 岸本 裕之
3	84 Masa TAGA
4	32 akiratea
5	9 小林 賢二
6	44 HISATEA



RESULT リザルト GT3-II

Rank No.	Name
1	26 佐藤 俊介
2	66 荻原 秀樹
3	88 ヤマダ ヒロシ
4	25 久岡 卓司
5	33 オオタユウキ
6	76 高木 啓一郎



RESULT リザルト GT4

Rank No.	Name
1	71 山本 聖渚

をとらえトップに立ちその後もファステストラップを更新しながら10周の決勝をトップチェッカー。トップ2台の後ろでは激しい3番手争いが続き、ラストラップでGT3-IIクラス#33 オオタが総合でも3位のポジションを奪いそのままチェッカーとなった。各クラス優勝ドライバーコメント#10 TAKAMI第5戦ではペナルティを受けてしまいました。練習でクラッシュしてしまいメカニク達が必死に直してくれて今回間に合いました。パーツなども間に合わなくて完璧ではない中、優勝できたのはスタッフのおかげで大変感謝しています」GT3-II #33 オオタ「第5戦でトップ取れたのにペナルティを受けてしまってチームの皆さんとが恩返しをしないと頑張りました。みんな速いので大変でした」GT4 #71山本「コースレコード更新できたのは良かったです。反省点もいろいろありますが、一つずつ積み上げていきたいです」と話していた

Round 6



RESULT リザルト GT3-I

Rank No.	Name
1	10 MOTOKI TAKAMI
2	99 KEN YAMAMOTO
3	62 KUMA
4	32 akiratea
5	27 眞野 壮一郎
6	9 小林 賢二



RESULT リザルト GT3-II

Rank No.	Name
1	33 オオタ ユウキ
2	66 荻原 秀樹
3	76 高木 啓一郎
4	25 久岡 卓司
5	88 ヤマダ ヒロシ



RESULT リザルト GT4

Rank No.	Name
1	71 山本 聖渚

LOTUS CUP JAPAN 2022 Round 2



LOTUS CUP JAPAN 2022は、開幕戦を鈴鹿で迎え、第2戦がここ富士で行われ、第3戦はSUGO、第4戦はもてぎと全国のサーキットを転戦して行われる。

日曜日に行われた予選でトップタイムだったのは、Class0-1#2 SYNTIUM EXIGE S 佐藤考洋1'56.134でポールからのスタート。2番手には、Class1トップの#10 BluesyロータスEXIGE 清水友一1'57.384。3番手はClass1 #22 ラブリーライフログスEXIGE 東浩平1'57.971。Class2では総合6番手の#24 LOTUS横浜EXIGE with Bluesy 長澤宏昭1'59.067のコースレコード更新でクラストップからのスタートを決めた。

決勝ではやはり#2佐藤がトップのまま順調に周回を重ね、どんどん後続を引き離しにかかる。Class1ではスタート直後から激しいトップ争いとなり、2周目には#22 東がクラストップの位置に上がってくる。その後は

徐々に3位以下を引き離しにかかる。Class2では最初の頃にはClass1と順位も入り乱れて各所でバトルもあったものの、4周目には#21 CarWatch エリーゼ 橋本洋平がクラストップに立つ。その後も中盤までクラストップ争いが繰り広げられたが、終盤になると、全マシン間隔が少しずつ開いた状態で10週の決勝を終了した。各クラス優勝ドライバーのコメントClass1 #22東「清水さんのマシントラブルに助けられてクラス優勝できました。#2に追いつきたかったけれど、さすがにかないませんでした。バトルが出来て楽しかったし、とても良い勉強になりました」Class2 #21 橋本「大混戦でした。どうやって前に行くか考えながら走っていましたが、周りの皆様もクリーンに走ってくれたので、とても楽しく走ることができました」と語った。



Winner



2nd



3rd



RESULT リザルト Class 1

Rank No.	Name
1	22 東 浩平
2	10 清水 友一
3	33 佐野 順平
4	62 荒井 哲央



Winner



2nd



3rd



RESULT リザルト Class 2

Rank No.	Name
1	21 橋本 洋平
2	24 長澤 宏昭
3	1 飯田 敏雄
4	3 高橋 基夫
5	15 荒田 良浩
6	36 今野 智